

MITO 32ND FILM FESTIVAL



photo:shouta koizumi

CINEMAPUNCH presents

第32回水戸映画祭 日本映画が好き2017 同時開催

2017年9月16日(土)～18日(月・祝)

会場:水戸芸術館ACM劇場

主催:NPO法人シネマパンチ、公益財団法人 水戸市芸術振興財団、水戸映画祭実行委員会

後援:水戸市、水戸市教育委員会、一般社団法人水戸観光コンベンション協会 協賛:一般社団法人いばらき社会起業家協議会

協力:ホテル水戸シルバーイン、茨城映画センター、310+1シネマプロジェクト ●水戸クリエイティヴウィーク参画企画



MITO
CREATIVE
WEEK 2017

9/16

平成29年度優秀映画鑑賞推進事業

日本映画が好き2017

特別協賛: 木下グループ

男女の心のあやや生きることはかなさを、冷徹な視線で描写し、
確固たる作風を築いた成瀬巳喜男監督の戦後代表作を紹介いたします。

10:30-『めし』 ¥500

1951年/東宝/白黒/スタンダード/97分
監督:成瀬巳喜男 出演:上原謙、原節子、島崎雪子
黒澤、溝口、小津に続く日本の四番目の巨匠として世界的に知られる成瀬巳喜男監督の代表作。結婚生活も5年が過ぎ、倦怠期を迎え始めた夫婦。そこに突然、夫の姪が転がり込んできたことから、単調な二人の暮らしに波乱が生じはじめる。原作は林芙美子の未完の新聞連載小説。良質な叙情と煥発する才気とが美しく調和した脚色が、繊細極まりない成瀬の演出と玉井正夫の撮影のなかに開花している。

13:10-『流れる』 ¥500

1956年/日本/東宝/スタンダード/116分 監督:成瀬巳喜男
出演:田中絹代、山田五十鈴、高峰秀子、杉村春子
隅田川畔の花柳界・柳橋を舞台に、置屋の女中の眼を通して零落する花街を描いた幸田文の同名小説の映画化。置屋の女将に山田五十鈴、その娘に高峰秀子、ベテラン芸者に杉村春子、女中役・梨花(お春)に田中絹代。当代を彩る女優陣の火花散る競演を得て、芸者として生きる女たちのけなげさやエゴを存分に引き出し、時代への郷愁を艶やかなモノクロームの画面に見事に定着させている。

16:00-オープニングシンポジウム ¥1,000

水戸の映像文化と水戸映画祭のこれから
あらゆる映像が身近にあふれる現代における映画を巡る状況を踏まえながら、水戸市長、映画制作者、映画批評家、などをお招きし、水戸の映像文化と「水戸映画祭」の目指すべきビジョンをテーマにシンポジウムを開催致します。また、「水戸芸術館」に隣接して建設予定の「水戸市民会館」や泉町地区の文化的な展望なども視野に議論します。
PANELISTS
高橋靖(水戸市長)、樋口泰人(映画・音楽評論家、boid主宰)、大寺眞輔(映画批評家、IndieTokyo)、遠山昇司(映画監督、プロデューサー)、磯崎寛也(一般社団法人いばらき社会企業家協議会理事、NPO法人シネマパンチ理事)、平島悠三(水戸映画祭ディレクター、NPO法人シネマパンチ代表)ほか

■上映作品:『冬の蝶』
2016年/日本/19分 監督・脚本:遠山昇司 出演:Una(ゆうな)、五十嵐靖晃、岩崎幸代、大西靖子

PROGRAM A 18:00-『パレードへようこそ』 ¥1,500

カンヌから始まった熱狂のパレードが、水戸映画祭へ世界各国で今最高に愛されている感動の実話!

2014年/イギリス/121分 監督:マシュー・ウォーチャス
出演:ベン・シュネッツァー、アンドリュース・スコット、ジョージ・マッケイ、ビル・ナイ、イメルダ・スタウトン他
INTRODUCTION
1984年、サッチャー政権下の荒れるイギリス。始まりは、ロンドンに住む一人の青年のシンプルなアイデアだった。炭坑労働者たちのストライキに心を動かされ、彼らとその家族を支援するために、仲間たちと募金活動を始めたのだ。しかし、全国炭坑組合に何度電話しても、寄付の申し出は無視される。理由は一つ、彼らがゲイだから。炭坑組合にとって、彼らは別世界の住人ではかないのだ。そこへ、動運いから始まって唯一受け入れてくれる炭坑が現れる! 寄付金のお礼にと招待された彼らは、ミニバスに乗ってウェールズ奥地の炭坑町へと繰り出すのだが――。

AFTER TALK 上映後「LGBTに触れる」をテーマにゲストトークを開催!

GUEST なめつち [LGBT活動家] ※その他ゲスト調整中
茨城県水戸市育ち。LGBT活動家。自らレズビアンである事を公表し、茨城県人権教育講師として茨城県全域の自治体や学校にて講演活動を行う。また、昼間は介護福祉士、夜はDJと両極端な場所でも精力的に活躍。どの場面でも「愛を持って」活動する事がモットー。

9/17

PROGRAM B 11:45-『息の跡』 ¥1,500

今は昔、世界の果てに、小さなたね屋があったとき
陸前高田から届いた、忘れられない風景の記録



2016年/日本/93分/ドキュメンタリー
監督・撮影・編集:小森はるか
陸前高田の荒涼とした大地に、ぽつんとたたずむ種苗店「佐藤たね屋」。津波で自宅兼店舗を流された佐藤貞一さんは、跡地に自力でプレハブを建て、営業再開。手描き看板、瓦礫の苗木カート、落葉や鶏糞の苗床土。水は、手掘りした井戸からポンプで汲みあげる。一方で佐藤さんは、自らの体験を独習した英語で綴り、自費出版していた。タイトルは「The Seed of Hope in the Heart」。その一節を朗々と読み上げる佐藤さんの声は、壮大なファンタジー映画の語り部のように響く。彼はなぜ不自由な外国語で書き続けるのか?そこには何が書かれているのだろうか?
震災のあと、陸前高田で暮らしはじめた小森は、刻一刻と変わる町の風景、そこで出会った人びとの営みを記録してきた。失ったものと残されたもの。かつてあったものと、これから消えてゆくもの。記憶と記録のあい。あの大きな出来事のあとで、映画に何ができたのか。そのひとつの答えがここにある。

PROGRAM C 13:40-『光』 ¥1,500

カンヌ国際映画祭エキュメニカル審査員賞受賞!



2017年/日本=フランス=ドイツ/110分
監督・脚本:河瀬直美
出演:永瀬正敏、水崎綾女、神野三鈴、小市慢太郎、藤竜也 他
生きることを意味を問いかけた『あん』(15)。河瀬監督と永瀬正敏のコンビが、ヒロインに水崎綾女をむかえ、次に届けるのは人生で大切なものを失っても、きつと前を向けると信じさせてくれる迷える大人のための、ラブストーリー。
INTRODUCTION
単純な日々を送っていた美佐子(水崎綾女)は、とある仕事をきっかけに、弱視の天才カメラマン・雅哉(永瀬正敏)と出逢う。美佐子は雅哉の無愛想な態度に苛立ちながらも、彼が過去に撮影した夕日の写真に心を突き動かされ、いつかこの場所に連れて行って欲しいと願うようになる。命よりも大事なカメラを前にしながら、次第に視力を奪われてゆく雅哉。彼の葛藤を見つめるうちに、美佐子の中の何かが変わり始める――。

PROGRAM D 15:50-『ダゲレオタイプの女』 ¥1,500

黒沢清監督、初海外進出、生と死のマージナルな領域を描くホラー作品。



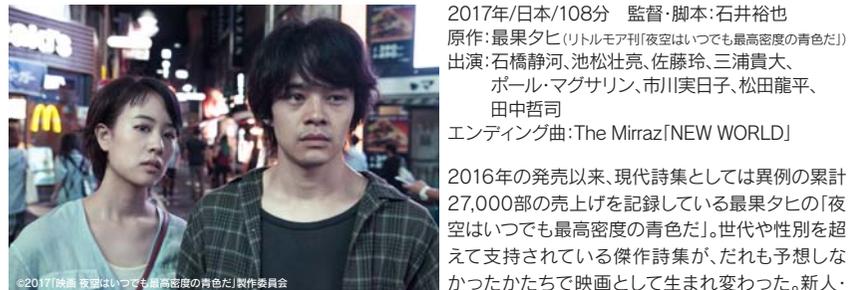
2016年/フランス=ベルギー=日本/131分/PG12
監督・脚本:黒沢清
出演:タハール・ラヒム、コンスタンス・ルノー、オリヴィエ・グルメ、マチュー・アマルリック
ある日青年ジャンは、ダゲレオタイプという世界最古の撮影技法を用いる写真家ステファンの元を訪れた。長時間モデルを拘束して撮影を行うこの技法に、妻を亡くしたステファンは彼女の死を否認するかのように娘マリーをモデルに撮影を続けていた。ジャンはマリーに惹かれていくが、次第に彼を取り巻く世界は狂い出し、虚実の狭間を漂い、転落の道を進む。生と死、現実と虚構といった境界を瓦解させ、我々の思考を揺さぶるホラー映画の傑作。上映終了後に精神科医を交えて、精神疾患をキーワードにホラー映画についてのトークセッションを行います。

GUEST 黒沢清 [映画監督]
太刀川弘和 [精神科医] 筑波大学医学医療系精神医学・准教授

9/18

PROGRAM E 12:30-『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』 ¥1,500

透明にならなくては息もできないこの街で、きみを見つけた。
悪い予感だらけの今日と明日が、少しだけ、光って見えた。



2017年/日本/108分 監督・脚本:石井裕也
原作:最果夕ヒ(リトルモア刊「夜空はいつでも最高密度の青色だ」)
出演:石橋静河、池松壮亮、佐藤玲、三浦貴大、ポール・マグサリン、市川美日子、松田龍平、田中哲司
エンディング曲:The Mirraz[NEW WORLD]
2016年の発売以来、現代詩集としては異例の累計27,000部の売上げを記録している最果夕ヒの「夜空はいつでも最高密度の青色だ」。世代や性別を超えて支持されている傑作詩集が、だれも予想しなかったかたちで映画として生まれ変わった。新人・石橋静河、池松壮亮を主演に、死の気配ただよ息苦しい現代の東京で自分の居場所を見失った二人が、互いに向き合って初めて見つける希望を描く。早くも石井裕也監督の最高傑作との呼び声が高い、「最高密度の恋愛映画」誕生!

INTRODUCTION
看護師をしながら夜はガールズバーで働く、美香(石橋静河)。建設現場で日雇いとして働く、慎二(池松壮亮)。人身事故で山手線が止まった夜の渋谷で、二人は出会う。「東京には1,000万人も人がいるのに、どうてもいい奇跡だね」

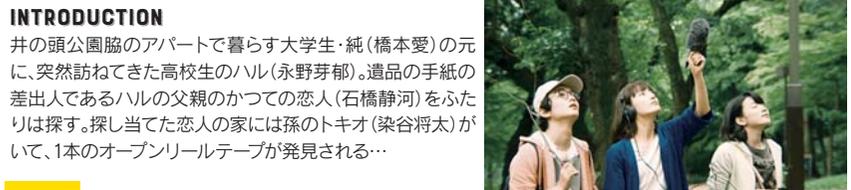
PROGRAM F 16:00-『PARKS パークス』上映+ライブ!!! ¥2,500

君と、歌いたい曲がある。100年目の公園、僕らの物語がここから始まる。



©2017本田プロモーションBAUS

2017年/日本/カラー/118分
監督・脚本・編集:瀬田なつき
出演:橋本愛、永野芽郁、染谷将太、石橋静河、森岡龍、佐野史郎 他
音楽監修:トクマルシューゴ
2017年5月に開園100周年を迎えた井の頭恩賜公園を舞台に、50年前に作られたひとつの曲が引き金となり、1960年代の恋人たちの記憶が、2017年の吉祥寺に生きる若者たちの夢と冒険につながっていく。さまざまな人々が忘れたい時間を共有し、やがて去っていく公園のような映画。かぎりなくオープンで自由で、祝祭の高揚感にあふれながら一抹の哀切な後味を残す、極上の青春音楽映画です。



INTRODUCTION
井の頭公園脇のアパートで暮らす大学生・純(橋本愛)の元に、突然訪ねてきた高校生のハル(永野芽郁)。遺品の手紙の差出人であるハルの父親のかつての恋人(石橋静河)をふたりは探す。探し当てた恋人の家には孫のトキオ(染谷将太)がいて、1本のオープンリールテープが発見される…

LIVE! Alfred Beach Sandal [ミュージシャン]
2009年に北里彰久(Vo. Gt)のフリーフォームなソロユニットとして活動開始。ロックやラテン、ブラックミュージックなど、雑多なジャンルをデタラメにコラージュした上に無理矢理ABS印のシールを貼りつけたような唯一無二の音楽性で、真面目に暮らしている。

井手健介 [ミュージシャン]
1984年3月生まれ 宮崎県出身。
東京・吉祥寺バウスシアターのスタッフとして爆音映画祭等の運営に関わる傍ら音楽活動を始める。バウスシアター解体後、2015年夏に1stアルバム「井手健介と母船」をP-VINE RECORDSより発表。2017年5月に12inchEP「おもやん・イサーン」(映画「バンコクナイツ」トリビュート企画第3弾)をEM RECORDSよりリリース。

谷口雄 [ミュージシャン]
1985年東京生まれ、善福寺公園育ち。
森は生きているのメンバーとして2013年にCDデビュー。以降、1983やあだち麗三郎、関取花、トクマルシューゴなど、様々なミュージシャンのライブ/レコーディングに鍵盤奏者として参加している。トークイベント「ミッドナイト・ランブル・ショー」主宰。スワンプ・ロックとSF小説、ヤクルトスワローズのファン。

関連企画

CINEMA VOICE [シネマボイス]

2016年、大工町のクラブスペースVOICEに「CINEMA VOICE」が出現!! ある世代以上には「パンテオン」だった場所。スクリーンはそのまま、ボックスソファ席でゆったり、お酒とタバコもOK。水戸近郊では未上映の良作を中心にセレクト。プログラマー鈴木洋平とゲストによるトーク付き上映もあり、上映後はラウンジが映画を通じた社交場に。DEEPな映画体験をどうぞ!

8.12(土)・13(日) 15:00~ 上映後、監督・キャストの
アフタートークあり

8.15(火)~19(土)・21(月)~26(土) 19:00~

各上映 **¥2,000** ※ワンドリンク付き 会場: CINEMA VOICE
〒310-0031 水戸市大工町1-6-1 ベルスボットビル4F TEL.029-239-5727
<http://www.voice-mito.com/cinema-voice>
<https://www.facebook.com/cinema.voice/>

『丸』 劇場公開記念!! 水戸凱旋上映 2014年/日本/89分 監督:鈴木洋平 出演:飯田芳、池田将、木原勝利、金子紗里、渡辺博行 他



平凡な無職男の部屋に突如として現れた謎の球体。それを目撃した者に降り掛かる奇妙な出来事。それはやがて不可解な引力で、予測不可能な事態をドミノのように生み出していく…。現代的なホームドラマが、黒く歪んだSFミステリーへと変貌する。それは閉塞した日本の現実に対する強烈なメッセージか?それとも観る者に実存的な問いを投げかける不条理劇か?その独特のユーモアと政治的なメタファーで、世界各地の映画祭で話題となった作品『丸』が日本に上陸する。

監督は茨城県水戸に活動の拠点を持つ鈴木洋平。映画制作活動に止まらず、クラブの空き時間を利用した映画館CINEMA VOICEを企画運営するなど、日本映画界の新たな存在として注目されている。長編デビュー作『丸』は、完成後、映画評論家のトニー・レイノズの目にとまり、主に外国の映画祭プログラマーや批評家の間で話題となった。イギリス映画協会が発行するサイトアンドサウンド誌上でベストテンに選出、またアメリカの映画雑誌フィルムコメントに批評やインタビューが掲載されるなど、無名の新人監督としては異例の事態を引き起こした。その後、日本にその評判が逆輸入。ついに劇場公開が決定し、水戸での凱旋上映が実現した。

INTRODUCTION

ある朝、無職の鈴木鉄男とその彼女は、寝室の隅に浮かぶおかしな球体に遭遇し、それに目をやった瞬間、そのままの姿勢で静止してしまふ。その状況に気づかぬままリストラを告白し始めた父親も静止。認知症の祖母と帰宅した母親は不審に思い通報するが警察官も次々と静止していく。その空間の時間が止まってしまったのか?それとも球体を見たものの脳に何か反応が起こったのか?警察は、リストラを告げた父親による龍城と断定、事態は予想もつかない方向へと向い出す。そこに登場した記者の出口隆一は、警察の発表を覆す証拠を掴むが、それがさらなる混乱を引き起こす…

関連企画

9.18(土) 18:30~ 野外映画上映 観覧無料!

会場: 茨城県三の丸庁舎広場 〒310-0011水戸市三の丸1-5-38
※小雨決行。荒天の場合は9/24(日)に順延予定 ※15:00より同会場にて関連イベントあり!



2012年より毎年9月水戸芸術館広場で行われている野外映画上映会。子供から大人まで毎年300人程の来場者で賑わい、愛されています。今年は、茨城県三の丸庁舎広場に場所を移して9/18(月)に開催! 実施にあたりクラウドファンディングも実施しております。是非ご支援の程宜しくお願いします。

上映作品『スタンド・バイ・ミー』

1986年/アメリカ/89分 監督:ロブ・ライナー
出演:ウィル・ワイトン、リヴァー・フェニックス、コリー・フェルドマン 他
<https://motion-gallery.net/projects/mitocreativeweek>

ただ今、クラウドファンディング実施中!

水戸クリエイティブウォーク 2017

MITO CREATIVE WEEK 2017

2017.9.16(SAT) → 23(SAT) 水戸市内各所
期間中、クラフト、アート、音楽、映画、演劇など様々な催しが市内各所で開催されます! 詳しくはウェブサイトまで!
<http://mito-creative-week.com>
水戸クリエイティブウォーク実行委員会事務局 Tel.029-255-6026

TICKET INFORMATION

※チケットは整理番号付き(予約順です)。ご入場は整理番号順となります。
※出演者のキャンセル、変更に対しての払い戻しは一切行いませんので予めご了承下さい。

9.16(土) 全席自由/日本映画が好き 各 ¥500
9.16(土)~18(日) シンポジウム ¥1,000
全席自由/入替制 A~Eプログラム 各 ¥1,500
Fプログラム ¥2,500
※各プログラム10分前開場となります



映画祭各日1本目のプログラム(『シンポジウム』『息の跡』『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』)整理番号1~30番までのお客様にポストカードをプレゼント!当日ご入場の際にお渡しします。

[チケット取扱い]
水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンター/水戸芸術館チケット予約センター Tel.029-225-3555
(9:30~18:00 月曜休館)

●お問い合わせ 水戸芸術館 Tel.029-227-8111 <http://arttowermito.or.jp/>

●上映内容に関するお問い合わせ NPO法人シネマパンチ Tel.029-253-5783 <http://www.mitotanpen.jp>

- 水戸芸術館への交通のご案内
- JRご利用の場合
上野駅から常磐線、水戸駅下車。北口バスターミナル4~7番のりばから泉町1丁目下車、徒歩2分。
- 高速バスご利用の場合
東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから常磐高速バス水戸行で約100分、泉町1丁目下車、徒歩2分。
- お車ご利用の場合
常磐自動車道水戸インターより約20分。芸術館地下駐車場をご利用ください。(30分まで無料、30分~1時間までは200円。それ以降は30分毎に100円。)

<http://www.facebook.com/cinemapunch>

<http://mitotanpen.jp>

8月11日
(金・祝)
発売!!

順次更新中!

